

発行所 (郵便番号100)
 東京都千代田区丸の内2-4-1
 丸の内ビルディング781号室
 社団法人スウェーデン社会研究所
 Tel (212) 4007・1447
 編集責任者 中嶋 博
 印刷所 関東図書株式会社
 定価200円 (年間購読料参千円)
 1984年6月25日発行
 第16巻 第6号
 (毎月1回25日発行)
 昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol.16 No. 6

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
 (The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
 Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

会長の挨拶

Presidential Message

会長 松前重義

President Shigeyoshi Matsumae

まず最初に、当研究所は本年をもって設立以来17周年目と相成りますが、この間研究所のために尽力された会員各位、役員およびスウェーデン大使館等関係方面の方々に深い感謝と敬意を表させていただきます。

今更申すまでもなく、スウェーデンの歴史は、まさに徹頭徹尾世界の平和を希求することに終始したものであります。私は、当研究所が設立されます以前に、私の東海大学に北欧文学科を設置して、北欧の事情の研究に当らせて参ったのでありますが、その目的は、単に文学のみでなく、これを通して、北欧の政治、外交その他、社会全般における物の考え方をつきとめることであります。

とくにその中で、スウェーデンの今日までの足取りおよび今後への行き方の研究は、わが国にとり参考として非常に価値あるものと考えております。わが国の外交が、とかくジグザグの経路をたどっていることは、今後の国際関係上極めて危険なものであり、スウェーデンのこの面での考え方を初め、その平和的な基本方針は大いに研究すべきものと考えます。

また、外交の面のみならず、防衛、又とくに原子力問題を通じて、スウェーデンは対立の中にも常に平和を望んで行動してきました。この間に、スウェーデンの国民が、自国の経済や福祉の政策をどう理解して国の行政に協力して来たかを考えますと、当研究所のこの面の研究は、極めて意義深いものがあると考えます。

今後、かかる価値ある研究を充実するため、資料による研究も大切ではありますが、そこに潜在する考え方の基本を過去の実績のなかより探り取るためには、スウェーデンの有為な政治家など有識者を日本に招いて、生々しいその実態の説明を聞くことが、更に重要であると考えます。

そのため、私は、このたび設立した松前国際友好財団を活用してスウェーデンより専門家を招聘し、情報交換を行うことにより、当研究所の活動の充実を計りたいと考えます。

このような招聘事業により、この友好財団を西独のかのフンボルト財団に劣らぬ価値あるものにしたいと念願し、既にスウェーデンの社民党のヘッグロート氏を招くことを決定しておりますが、研究所の会員各位も適切な招聘の候補者をご紹介願いたいと存じております。

ここに、この財団がかかる形でわが国の今後の安定と発展に寄与することを念願すると共に、これらによって当研究所が松前国際友好財団との協力のもとにその設立の目的達成に更に邁進できますよう会員各位のご協力を切にお願いいたします。(於、昭和59年度通常総会)

目次

会長の挨拶	松前 重義	1
理事長就任の挨拶	西村 光夫	2
スウェーデン経済一弛かな回復	永山 泰彦	2
(Göteborg) 通信 合理性と感受性	三瓶 恵子	5
(事務局より) 昭和59年度通常総会報告		6
寄贈図書、資料の紹介		6

理事長就任の挨拶

Message of Chairman of the Board of Directors

理事長 西村 光夫

Prof. Teruo Nishimura

スウェーデン社会研究所の創立は昭和42年(1967年)でありましたから、今年数へ年で18歳、人間ですともっとも元気な青年期に達したところであります。われわれは7年前創立10年を祝いましたときに、今までの10年は基礎作りであった、これからの第2の10年をもって内容の充実と事業活動躍進のディケードにしようといふ大いに意気込んだのであります。幸いその期間に平田富太郎先生が所長に就任され、鋭意研究活動の発展に努力され、大いに成果を挙げられました。ところが先生にはたださへ御多忙のところへさらに新たな要務を負はれることとなり、所長御退任を決意されました。われわれとしては何とも残念な次第であります。

先生はこの度の御退任に当って、これを研究所の更に一段の発展の機会にしたいと考へられ、それに必要な新陣容の形成、資金の拡充、新たな企画・運営方針の樹立等今後のことについては、挙げて松前会長の裁量を仰ぐことにしたいとされました。松前先生には快よくこの希望を容れられ、新たな体制を整へ、新たな活動にはいることを決意されました。これらのことは4月26日の臨時理事会及び5月25日の総会において満場一致で承認され、研究所は茲に新たな出発とも言へる機会を迎へたのであります。私はこの際凶らずも理事長の大任を命ぜられ恐懼に堪へぬところでありますが、会長の下、内外の皆様の御力を籍りて、微力ながら全力を傾けて研究所の発展に尽したいと考へております。皆様の一層の御支援御鞭撻を御願ひ申し上げます。

スウェーデン経済—弛かな回復

The Swedish Economy—Slow Recovery

評議員 東海大学教授 永山 泰彦

Prof. Yasuhiko Nagayama

1983~84年のスウェーデン経済で、最も特徴づけられるのは、1982年10月に実施されたクローナの16%切下げの効果であろう。一般に、通貨の切下げは輸出を促進する反面、原材料・製品の輸入価格の上昇によって国内経済にインフレ効果をもたらす。1983年のスウェーデン経済はまさに、この教科書通りになった。1983年の輸出は数量で、対前年比約10%伸び、さらに今年も引き続き6~7%の増加が期待されている。

他方、輸入価格はクローナの切下げによって上昇したため限界輸入額が減少した。さらに、1983年の賃上げが2%以下と小幅だったので、輸出製品のコストをあまり上昇せず、また国内の個人消費も対前年比でマイナス0.9%に減少した。その結果、貿易収支は1982年における赤字(マイナス58億クローナ)から、110億ドルの黒字に転じた。経常収支も、1982年の220億クローナの赤字(GNPの3.6%)から、赤字幅が縮小してマイナス60億クローナに改善された。

他方、通貨切下げによるインフレ効果の方は、国内景気が沈静していたのが幸いし、軽微な影響にとどまり、1983年の消費者物価上昇率は9%で、82年の8.6%(いずれも対前年比)をわずかに0.4%上回った程度ですんだ。

3年間も低成長(1980年1.4%、81年-0.5%、82年0.5%)を経験したスウェーデン経済も、1983年にはようやく2%台に回復し、今年はさらに若干成長が加速化して、2.5~2.6%になりそうである(政府見通し)。

スウェーデンの経済界は久し振りに明るさを取り戻したが、その背景には産業部門における設備投資が5年ぶりに回復する兆を示した。また、在庫調整が完了し、鉱工業生産も増加する傾向が明らかになり、企業の収益率も改善されている。民間企業の設備投資は、政府やスカンジナビア・エンシエルダ銀行の予測によると、⁽¹⁾ 昨年の対前年比マイナス6%が、今年には8%になり、スウェーデン産業連盟の予測では5.5%増になる見込みであ

る。企業も、ようやく経済の本格的な回復に自信をもち、新規の設備投資に踏切ったのであろうか。

スウェーデン経済の構造的危機

スウェーデン経済は1983年以来、着実に回復基調を示しているが、まだ手放しで楽観できる状態ではない。むしろ、スウェーデン経済は深刻な構造的な問題をかかえ、危機的な状態からようやく回復の緒を見出したばかりだとみられている。

確かに、輸出は増加し設備投資も回復の兆をみせている。又、鉱工業生産も、年率で数%の率で増加している。しかし、これらはまだ「水面下」における回復であり、今後経済がこの調子で伸びたとしても、過去のピーク時であった1974年の水準に達するのは、1985～86年になってからである。石油ショック後、世界経済は1930年代以来の深刻な不況を経験した。とくに、ヨーロッパ諸国は深刻なスタグフレーションに陥った。しかし、スウェーデン経済のパフォーマンスは、西ヨーロッパ諸国全体の平均よりも悪い点が問題なのである。

OECD加盟のヨーロッパ諸国の経済成長（GDPの伸び率）は、1970～82年の12年間でわずかに35%であった。ところが、スウェーデン経済はこれよりももっと悪く、同期間における経済成長はわずかに20%にすぎない。とりわけ、1975～82年の7年間には、経済がほとんど成長しない「ゼロ成長」であり、一人当りの実質所得はこの期間にはマイナスになった。

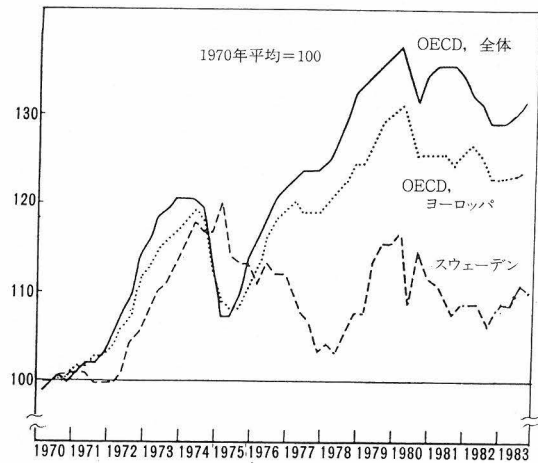
鉱工業生産の方が、経済成長よりもさらに明白な差を示している。第1表はOECD加盟国全体、ヨーロッパのOECD加盟国平均とスウェーデンの鉱工業生産の推移を比較した図である（1970年平均＝100）。スウェーデンの場合、1975年第1・4半期をピークにその後低迷を続けているが、他のOECD諸国の鉱工業生産は逆に1975年第1～2・4半期を底に急速に回復し、1980年の第2次石油ショック後に再び低下して、1983年から再び回復に転じた。

スウェーデンの経済・産業の不振を反映して、租税収入の伸びがストップし、政府の財政赤字が拡大し、1982年にはGDPの6.3%に達する赤字を記録した。又海外からの借り入れ（累積債務）も急増した。

このスウェーデン経済の構造的危機の要因は複

(第1表)

鉱工業生産の動向、OECDおよびスウェーデン（1970～83年）



資料: Finansdepartementet, Sverige

雑であるが、比較的短期的な要因としては、第1に、急速な世界の市場構造の変化にスウェーデンの産業が対応できなかったこと、第2に、1970年代における経済政策運用の誤りも指摘されよう。

石油ショック後、世界市場は急速な変化をとげた。資源保有国や中進国の追い上げが著しい反面、先進工業国における技術革新も著しい。スウェーデンも、世界的な先端技術の開発には一部成功し、先端産業も育成されている。しかし、かつてのスウェーデン産業の原動力であった鉄鉱石、鉄鋼、紙パルプ、造船などが構造不況におち入り、新産業部門の発展でカバーできなかった。

この点については、スウェーデン産業連盟などが依頼した、ボストン・コンサルティンググループの報告書の指摘は次の二点で示唆に富んでいる。同報告書によると、第1に、スウェーデンはOECD諸国における輸出市場のシェアを1962年以来、趨勢的に失ない、1970年代までに約10%失ってしまった。また、1970年における世界市場のスウェーデンのシェアは2.2%であったが、1982年には1.3%に減ってしまった。

結局、スウェーデンでも労働熟練度の高い先端産業部門：化学薬品、エンジニアリング（電気機械、輸送用機械、一般機械等）は石油ショックを克服して伸びているが、労働熟練度が低く、かつ労働集約的な伝統産業（紙パルプ、造船、鉄鉱、製鉄および木工品）は衰退化が著しく、急速に国

際競争力を失ったが、先端産業部門がそれらを充分カバーできなかった。

第2に、同グループの調査によると、先端産業部門におけるスウェーデン企業の強力なライバルの中には、日本の企業は入っていないことである。例えば、ボルボやサーブ・スカニアのライバルとしては、ダイムラー・ベンツ、ASEAにはジーメンス（西独）、L・M、エリクソンにはITT（米）、Kema Nobel（医薬品）にはバイエル（西独）、アトラス・コプコには Ingersoll-Rand（米）など、西ドイツやアメリカの企業があげられている。結論として、労働熟練度の高い化学薬品・エンジニアリング（電気機器、輸送機械、一般機械等）、ソフト関連産業などは石油ショックを克服し、相対的に伸びているが、伝統的な基幹産業が世界市場で競争力を失ない、深刻な構造不況におち入ってしまい、全体的に産業を不況に追込んでしまった。

しかるに、第一次石油ショック直後の1974～75年に、当時の政府が国際的に不況は短期間で終わり、そして、スウェーデン産業のコストはあまり上昇しないであろうとする誤った見通しに基いて、拡張的な金融・財政政策をとってしまい、深刻な経済の不均衡を招いてしまった。⁽³⁾

スウェーデン政府の対応策

パルメ首相は政権に返り咲いた際、スウェーデンの「福祉国家体系」はスウェーデン社会の統合化された一部なので、部分的な修正は必要であるが、体系の基礎は変えないと声明している。しかし、スウェーデンの産業・経済が基本的に立ち直らない限り、理想的な福祉や教育プログラムを示しても、実現の可能性はない。そこで、スウェーデン政府は経済再建のための三段階にわたる中期的な「あめと鞭の政策」を打出した。⁽⁴⁾

まず、1982年10月に実施されたクローナの16%切下げであったが、次いで今年の春からクローナ切下げの効果を踏まえ、第二段階の政策として、物価安定政策と経済成長を阻害しているボトル・ネック（隘路）を除く政策を発表した。

インフレ抑制はスウェーデン経済の再建にとって最も重要な課題であるが、スウェーデン政府は具体的に、現在のインフレ率（CPI）の年9%を4%に下げる目標をかかげ、①財政赤字の削減、②公的部門（建設、農業、防衛、教育）における

インデクセーションの廃止・補助金の削減、③家賃凍結の実施などを決めた。

1984～85年の予算案も緊縮の方針が出され、農産物の価格維持のための助成金、義務教育の人材確保のための奨励金、鉄道への補助、雇用創出の補助金などの削減・廃止を盛り込み、赤字額を約41億クローナ減らすことを計画している。⁽⁶⁾

第二に、経済成長を阻害している隘路をなくすため、労働市場の流動性を高め、熟練工や技術者不足の解消をはかること、資本市場における資本コストの引下げ、具体的には資本に対する課税を軽減する。

第三に、個人所得の限界税率の上限を今後3年間で65%から50%に下げ、勤労意欲を高めめる政策も発表した。また、公的部門の一部民営化によって経済効率を高めめる政策もとられることになった。例えば、スウェーデン最大の銀行であるPT銀行（郵便銀行）の民営化が決まった。

これら一連の政策が実を結ぶためには、いろいろな条件が必要であるが、高齢化社会を控えたわが国にとって、スウェーデン経済の成果は無視できない。なお、スウェーデンの経済実績および1984年の予測は第2表のようになる。

（第2表） スウェーデンの経済予測 1984年

	1982年 名目値	1983年 対前年比 %	1984年予測 対前年比 %	S-E銀行 対前年比 %
	(10億クローナ)		政府 予測(1)	S-E銀行 (2)
消費	518	-0.9	—	0.6
個人最終消費支出	333	-2	0.2	0.5
公的消費	185	1.0	0.9	0.6
{中央政府	54	-2.7	-1.5	-1.5
{地方政府	131	2.6	1.8	1.5
粗固定投資	118	-3.2	1.1	-1.2
民間設備投資	49	-6.9	8.0	5.2
政府投資	48	—	—	—
{中央政府	15	3.4	-8.3	8.0
{地方政府	23	-1.2	-1.7	-3.5
住宅	27	-5.9	-7.3	-8
国内総需要	628	-1.3	2.3	1.3
在庫の増減	-7	-0.1	1.7	1.0
財貨サービスの輸出	202	10.1	5.1	6
財貨サービスの輸入	208	-0.3	4.5	4
G D P	623	1.9	2.6	2.1

- (註) (1) Ministry of Finance
(2) Skandinaviska Enskilda, Banken, Samhällsekonmisk Sekr. "Försörjningsbalans" 1984
- (註) (1) Skandinaviska Enskilda Banken Samhällsekon Sekr., "Sveriges Ekonomi 1983-1985" Jun. 1984. および "Det Ekonomiska Läget" Mar. 1984.
(2) Tha Boston Consulting Group, "A Framework for Swedish Industrial Policy" Sto-

ckholm 1979.

- (3) アサール・リンドベック著 永山・高宗・島・小林訳「スウェーデンの経済政策」東海大学出版会 1981年 第13章で詳しく分析されている。
- (4) 大蔵省の経済政策諮問委員会報告
- (5) 元駐スウェーデン大使館参事官 松下正三氏の「1984/85年度予算案について」スウェーデン

社会研究月報 Vol 16. No 3 参照。

(参考文献)

- (1) Carl Johan Åberg, “Ekonomisk Politik 1973-1979”, Socialdemokraterna 1979.
- (2) Bo Sandelin, “Den Svenska Ekonomin”, Rabén & Sjögren 1980
- (3) Federation of Swedish Industries “View Point”.

<Göteborg 通信>

合理性と感受性

会員 三瓶 恵子

Mrs. Keiko Sampei

歯の治療に通っています。歯科にも救急とそれ以外との区別があって、救急 akut の場合は、市の救急受付に電話をすると、その日のうちに治療をしてもらえますが、それ以外の定期検診等は、地域の所属担当医のところへ通うことになっています。私の場合は、定期検診に申しこんでから約半年間待たされましたが、市内にある約40の公共歯科治療センター allmäntandvård の各々で1カ月から1年(?)の待ち時間の幅があるようです。この他に個人、つまり“私立”の歯科医に直接、あるいは間接に連絡をとり治療してもらうこともできます。ヨーテボリィ Göteborg 市はスウェーデン第2の都会ですし、また大学に歯学部があること等から、他の普通の都市よりは治療の体制が整っているようです。前に住んでいたエーレブロ Örebro 市では、公共のための独立の施設が完備していなくて、個人医が持ち回りで救急の担当医になっていました。

前置きが長くなりましたが、今回書こうと思ったのは医療体制のことではなくて、実際の治療室の中で感じた“合理性と感受性”の日瑞の相違についてです。

治療室に入って最新式(?)の機械の前にすわらされると、漂白していないトイレットペーパーのような粗悪な紙を、洗濯ばさみのようなクリップであごのまわりにとめられるのです。この紙は広く医療に用いられているようで、婦人科等、診療台に寝て診察する際には、台の頭の方にそれこそトイレットペーパーのようにカラカラと回るようになっていて、診察が終わった後でピッと破いて捨てるようになっていきます。

このような紙の使い捨ての習慣がいつごろから

始まったのかよく知りませんが、トイレでも一回毎にペーパー・ナプキンで手をふいて捨てるようになっていきますし、水のみ用紙コップ(プラスチックの場合もあり)も使い捨てです。

で、今回の私の“カルチャー・ショック”は、“使い捨て”それ自体にあるのではなくて、どうせ紙を使うのなら、なぜ“二枚重ね、白く、柔かく”というもう少し上等のものにしないのだろうかということなのです。ゴワゴワする漂白されていない紙で歯の治療中にほっぺをごしごしこすられるのは、あまり気持ちのよいものではありません。“ビニールや布より衛生的で、人手がかからない分、合理的なんだろうけどねエ……。スウェーデン人というのは感受性にとぼしいのではないかしら…?”と思うしだいです。

友人の見聞によりますと、買い物をしている時に、一人のおばさんが香辛料のフタをとって中のおいをかいだのだそうです。私は幸いにまだそういう場面にでくわしたことがないので、平気でスーパー・マーケットで香辛料を買っていますが、もし実際に目の当たりにしたら、買う気が失せて、わざわざ専門店に行行って買うようになるかもしれません。(もしかしたらその専門店でも売り子がびんに鼻をつっこんで…)

食べ物の話にうつってしまったので関連のエピソードをもう一つ。学生寮でみんなと一緒に料理を作っていた時のことです。シチューに使うピーマンの一かけらが床に落ちたのであわてて拾って洗ったところ、みんな驚いた顔で“中に入れば熱でばい菌は死んじやうのに!”と言ったのです。私、もちろん、啞然。自然科学系の学生ばかりだったので、理論的にはあっているのかなあ

?ミとシチューを食べながら悩んだのですが、やっぱり、つまりは“感受性”の問題ではないかと思えます。でも、もしかしたらそうではなくて、単に生活習慣の違いなのかもしれません。気がつかないところで、“なんて日本人は感受性にとぼしいのだろう”。と思わせるようなことを、私もたくさんしているのかもしれない。

また話を歯科の治療室に戻しますと、私についてのお医者さんは大学を出たばかりのような若い人で、治療が楽しくてたまらないというようなタイプの人。口の中に四角いフィルムを入れて全部の歯をレントゲンで調べるので、“ウワァ、ワァ”

とも言えないでいる私にむかってしゃべりつづけます。“え、日本から来たの。日本語一ツ知ってるよ。アンジンサン!ていうの。”すると横から看護婦が、“コンニチワだって知ってるわよ。”と口をはさみます。笑うこともできずに、ひょっと天井に目をやると、なにかの雑誌から切り抜いたらしいきれいな風景写真が貼ってありました。そうです。天井に!体をたおして治療をうけている患者の心がなごむように。天井の写真と、治療室の“トイレット”ペーパーのとりあわせ、まったくおもしろいと思いませんか?

事務局だより

昭和59年度通常総会

去る5月25日開催の標記総会の議事の概要をご報告します。

会長挨拶一本誌第1頁参照

- 事業計画—1 研究会 6部門(外交、国防、政治、教育、婦人問題、科学技術政策)、福祉は、原則として岡野加穂留先生主催の「福祉社会」を再考するゼミナールに合流
- 2 松前国際友好財団の招聘者等との学術交流
 - 3 月報及資料の出版と資料の集収
 - 4 スウェーデン語講習会
 - 5 日瑞基金の受託業格

収支予算—予て送付しました原案の通り

役員異動—(新任) 理事長(所長兼務)—西村 光夫

顧問—小野寺百合子、高須 裕三、内藤 英憲

常務理事—竹市 知弘、藤牧 新平、(留任)中嶋 博

理事—飯野 靖四、岡沢 憲美、大木 彬彦、松前 達郎

監事—川村 栄一、角田 善彦

(所長を辞任し理事就任) 平田富太郎

(退任) 佐々木 大、堀内 六郎

寄贈図書・資料の紹介

- 数字とグラフで見るスウェーデンの夫婦財産契約
菱木昭八朗先生……『専修法学論集』 No. 39 1984. 3
- スウェーデンにおける流通革命—スウェーデンの小売商研究からのサジェッション
内藤 英憲先生……『日本大学経済学部経済科学研究所紀要』第8号 1984. 3
- スウェーデンにおける消費協同組合の現状と問題点
内藤 英憲先生……『日本大学経済学部産業経営研究所紀要』第8号 1984. 4
- 連合と合意形成—スウェーデンの連合政治
岡沢 憲美先生……『連合政治—デモクラシーの安定を求めて、篠原 一先生編、(岩波書店)所収 1984. 5